

平成30年11月12日

魚沼市議会議長 森 島 守 人 様

福祉文教委員会

委員長 佐 藤 肇

福祉文教委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 所管事務調査について
(2) その他

- 2 調査の経過 11月12日に委員会を開催し、付託案件の審査及び所管事務について調査を行った。
所管事務調査については、10月15、16日の行政視察の総括を行った。
その他で、平成30年度うおぬま元気ポイントの前期実施状況について、めぐみ幼稚園について及び介護老人保健施設の整備について、執行部から報告を受け、質疑を行った。

福祉文教委員会会議録

1 審査事件

(1) 請願第3号 「中条第二病院・老健きたはら」の存続を求める請願

2 調査事件

(2) 所管事務調査について

・行政視察の総括について

(3) その他

・平成30年度うおぬま元気ポイントの前期実施状況について

・めぐみ幼稚園について

・介護老人福祉施設の整備について

3 日 時 平成30年11月12日 午前10時

4 場 所 広神庁舎3階 301会議室

5 出席委員 浅井宏昭、星野みゆき、大平恭児、佐藤 肇、関矢孝夫、本田 篤、
(森島守人議長)

6 欠席委員 なし

7 説明員 梅田教育長、中村福祉課長、金澤健康課長、堀沢教育次長、
山田健康増進室長、広井子ども課長

8 書記 櫻井議会事務局長、関主任

開 会 (10:00)

佐藤委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから福祉文教委員会を開会します。これから本日の会議を開きます。まず、本委員会に付託された議案について審議します。

(1) 請願第3号 「中条第二病院・老健きたはら」の存続を求める請願

佐藤委員長 日程第1、請願第3号 「中条第二病院・老健きたはら」の存続を求める請願を議題とします。請願の審査に当たりまして、採決した場合の意見書についても少し調整させていただいておりますので、先に配付させていただきます。(意見書案配付) 本件については、9月19日の委員会で継続審査とされたものであります。その後の経過等について執行部より補足の説明がありましたらお願いいたします。

中村福祉課長 福祉課のほうで状況を把握していることを報告させていただきます。中条第

二病院に入院されている方の1名は、五日町病院に転院されたということです。市の家族会の状況を確認してみましたけれども、特別な動きはないようですが、家族会では病院の責任で行き先を探してほしいということをお願いしておりますけれども、病院は廃止の方向で動いているようなのでそれがとても心配だということと、急性期については基幹病院がありますけれども慢性期の入院も今後必要な方が出てくるのではないかとということ、慢性期の入院に対する病院がないと不安だという声はお聞きしております。

佐藤委員長　これから質疑を行います。

関矢委員　今、福祉課長から説明がありましたけれども、県の動きなんですけれども、この請願が出されて約2カ月くらい、その間近隣の市町村では請願を採択して意見書が県のほうにも行っているかと思うんですけれども、今ほど説明にありました急性期の患者は基幹病院になるということなんですけれども、慢性期について中条第二病院がなくなるとみていただく場所がなくなるので、県のほうはその後どのような動きがあったか、おわかりになりましたら教えていただきたい。

中村福祉課長　特段県の動きがあるか承知しておりません。

佐藤委員長　ほかにありませんか。(なし)なければ、10月3日に私と大平副委員長の2人で十日町市に出向きまして、現状及び十日町市の対応等について説明を伺ってまいりました。経過等については、資料にまとめさせていただき先般配付させていただいたところでございます。改めまして状況等について大平副委員長より説明させていただきます。

大平委員　今、委員長がお話ししましたとおり10月3日に十日町市役所に赴き、福祉、病院等の担当課とお話をさせていただきました。率直なところ、非常に微妙な問題とか地元の十日町市の問題等について、私たち魚沼市の委員会の聞き取りを受け入れていただいたことに本当に私自身としては驚きと、それから皆様方のお手元に資料を配付させていただいておりますけれども細かな内容について詳細にお答えいただいております。それについても、私たちは正直驚いております。しかし、裏を返せば非常に深刻な問題だということで、中身についてもし質疑があれば受けたいと思います。非常に率直な意見としては、非常に困っているという話が随所にみられました。

佐藤委員長　これから質疑を行います。(なし)なければ、これで質疑を終結します。討論を省略し採決することに異議ありませんか。(異議なし)異議なしと認めます。よって、討論を省略し、採決することに決定しました。これから請願第3号を採決します。お諮りします。本件は採択すべきものとするにご異議ありませんか。(異議なし)異議なしと認めます。よって、請願第3号は、採択すべきものと決定されました。本請願を採択しましたので、意見書案を事務局長に朗読させます。

櫻井議会事務局長　(意見書(案)朗読)

佐藤委員長　お諮りします。ただいま朗読のあった意見書にご異議ありませんか。(異議なし)本会議で採択されたときには、委員長が提出者となり委員会で発議することにご異議ありませんか。(異議なし)異議なしと認めます。よって、そのように決定されました。

(2) 所管事務調査について

・行政視察の総括について

佐藤委員長 日程第2、所管事務調査についてを議題とします。行政視察の総括を行います。今回の行政視察に対する各委員の感想、意見等の総括をさせていただきます。順次、皆様方から報告を求めたいと思います。

浅井委員 エンディングプラン・サポート事業については、低コストで登録管理できることと、災害時にも役立てることができることから、災害の多い魚沼市でも有効な事業だと感じました。立川市子ども未来センターについては、立川まんがぱーくは、最初子ども中心に視点を向けているのかと思っていましたけれども、大人や外国人の方も視野に入れた事業だったので非常に関心をいたしました。ぜひ魚沼でもやっていきたいことだと感じました。イングリッシュビレッジ MAEBASHI についてですが、公共施設再編整備の観点のようになってしまうんですけども、体育館は耐震工事が終わっていませんでしたので、耐震工事をして使用することが経済的にも困難だと担当の方がおっしゃっていました。これから先、市内の建物を管理する指定管理者の受け皿を見つけるには、ある程度の投資をしないのではないと見つからないのではないかなと感じました。

星野委員 エンディングプラン・サポート事業に関しましては、今後ますます高齢社会が進み、孤独死、無縁死がふえていくことが予想されるため、注目すべき事業ではありますが、対象条件の該当が当市では少ないため、すぐにどうこうという感じにはとれませんでした。終活情報登録伝達事業は終活関連情報を生前に登録してもらい、万一のとき病院、消防、警察、福祉事務所や本人が指定した方に開示し、本人の意思の実現を支援する事業であり、希望する市民であれば年齢も収入も問わず誰でも登録でき、また、空き家対策までつながる、人生の最後まで1人1人が安心して毎日を過ごせることのできるすばらしい事業であり、また、すぐにできる事業の1つではないかと思いました。何よりも予算2万円、担当課3名でスタートしたことに驚き、還暦を迎えられるという北見課長の思いが詰まった事業内容であることを感じ、志の高い課長を見習い、ますますすばらしい職員が出てくる、イコール横須賀市の発展につながっていると思われました。魚沼市の職員の方にも大いに期待するところがございます。立川まんがぱーくは、旧市庁舎の利活用で活気を呼び戻すためにできたものでした。まず私が思ったことは、視察のメンバーの目がきらきらとし、まんがぱーくで寝そべっている大人もにこにここと、皆さんの顔が童心に戻っていました。約4万冊の漫画を1日400円で読みたい放題、押し入れのスペースでお菓子も食べ、アルコールも飲みながら1日漫画を読みふけられるというくつろぎ満載の空間。天気のいい日にはテラスでのんびりひなたぼっこをしながら、そのままお昼寝もできるという、1日利用者が平日150~200人、土日祝日が400~800人という、毎日イベントでも開催されているような人数でございました。指定管理料の支払いが発生しない独立採算の自主事業であり、売り上げの一部を市へ支払っているということで、言うことなしの事業だと思いました。魚沼市も庁舎が新庁舎に移りましたら、小出の町なかが一段と活気がなくなるかと思われそうです。にぎわいを創出する意味からも、現在の小出郷図書館の1階、2階をまんがぱーくにできたらいいなと率直に思いました。イングリッシュビレッジにつきましては、中央カレッジグループの1つということでした。10個以上学校を経営していることから、その学校が行事ごとに利用したり、教科書販売もできたりするということなので、同じような母体となるところがない当市としては、ちょっと違うのかなという思いで聞いておりました。どうせやるなら、トイレをきれいに使いましょうなどという注意書きも日本語を

やめて全て英語にするとか、まさに英語村にしたらいいのではないかと思ひ、また、内容も現在の小中学校のALTの方々が行われていることとそんなにかわらないのではないかなと思ったのが感想です。

関矢委員　　まず横須賀市の終活支援についてですけれども、エンディングプラン・サポート事業については、横須賀市と当市との違いもあって、まだ当市についてはそこまで急速にこれをやる必要があるかなというところは感じてきました。ただ、終活情報登録伝達事業を聞かせていただきまして、これは早急にうちのほうもやったほうがいいのかなというふうには思ってきました。先ほど星野委員が言われましたけれども、空き家対策だとか独居で暮らしている老人の方の見守りもできますし、そういう中では情報が共有できるということで、いい伝達事業だと感じてきました。そして、何よりもやはりこれを事業化した職員の熱意といいますか、説明を聞いていてひしひしと感じてまいりましたので、うちのほうも今後の対策について職員から頑張っていたきたいというふうには思っていました。それから、2日目の立川市と群馬県の施設ですけれども、これについてはどちらかという公共施設再編整備のほうの感覚で私は見させていただきました。やはり民間の知恵といいますか、そういうのを使うことによって公共施設の再編が活かされるんだなというふうには思っていました。特に立川まんがば一くですけれども、この事業をやられている方が、魚沼市も公共施設の再編をやっていると言いましたらかなり関心を持っていられたみたいですので、そういうところの知恵などをお借りしながらうちの公共施設の再編もやっていければというふうには感じてまいりました。

本田委員　　重複するようすけれども自分のポイントを発言させていただきます。エンディングプランにつきましては、この事業そのものは、魚沼市においては今現在は必要ないにしても将来的にはあり得る事業なのかなというふうには受け止めました。もう一点が、一職員の現場での問題意識というのが事業につながったということでありまして、それを拾い上げる内部のシステムづくり、環境づくりというのが重要なのではないかと感じました。まんがば一くにつきましては、私も事業そのものよりも魚沼市に当てはめた場合に図書館プラスアルファ、そういった何か高齢者の憩いの場があったらいいのではないかなというふうなヒントを得たと思っております。特に小出郷図書館、1階、2階部分は図書館として機能しておりますが、ほかの階につきましてはまだ未利用の状況であります。こういったまんがば一くさんの取り組みをプラスアルファで図書館に加えていったら何かおもしろい事業が展開できるのではないかなと思ったりもいたしました。最後になりますイングリッシュビレッジなんですけど、旧校舎の利活用ということでありまして、その地域で精力的に活動されております学校法人とうまくマッチングした例なのかなというふうには感じております。魚沼市においてもそういった事業所さんがあれば、こういった公共施設再編の枠の中でうまく何かしらの展開ができるのかなと思っておりますけれども、なかなか魚沼市においては、地元地域ではそういったことを担う方々が少ないと思ひます。そういった意味では、ソーシャルビジネスに取り組む事業所を見つけることも大切でありまして、また、育てていくことも必要なのではないかという印象を持ちました。

大平委員　　横須賀市のエンディングプラン事業についてですけれども、まず驚いたのが引き取り手のない無縁の遺骨が非常に多いということ、それが自治体の努力で行われているという実態に私は正直驚きました。我が市ではこれに当てはめるといことがないですけれ

ども、示されているように全国で平均3.3%の無縁の遺骨があると、将来的には1割になるんじゃないかという話をされてきました。これを考えれば、今の当市の状況も少し調査すべきではないかと考えております。1人暮らしの方も今後当市でもふえていくと、現在でもありますが、親戚や縁者、知り合い等がなくて非常に困難を抱える事例も今後出てくる可能性があるのです。そこは注視していく必要があるんじゃないかなと。そういう意味で、終活登録事業ですか、この事業については、ほかの委員の方も言いましたが非常に重要なポイントではないか。当市でも積極的に取り組むべき案件だと考えています。何よりも災害や緊急時になかなか人員の把握が難しい状況も、今はできたとしても今後は難しい形も考えられるので、そこについて生前でしっかりと了解を得た上で情報収集するのは非常に大事だと考えております。やっぱり死に際しても個人の尊厳を守るような横須賀市の取り組みは、非常に感銘を受けました。当市でもこれは十分に参考にすべき案件だと考えております。ただ、民間の病院や介護施設、警察等でも把握がなかなか難しいという状況がある中で、やっぱり行政が取りまとめないとこういう事業は成り立たないかなと感じました。まんがぱーくについては、自主事業で独立採算で行われているということで、立川市の状況を考えれば当市に当てはめるのはちょっと難しいかなというふうに考えてきました。ただ、全国的にこのまんがぱーくについては取り組みはほとんどないということで、独自性を考えれば非常に興味深い取り組みで、ここは先ほど来出ております今後の図書館、図書室の利用のあり方についても、非常に興味深い話を伺ってまいりました。ただ、これも民間の事業であって、なかなかそこを当市で民間ということで結びつけられるかどうかというのは今後の大きな課題になるかと思えます。やっぱり庁舎再編や今後の公共施設再編、利活用についても柔軟な考え方で生かして、本当に将来的に喜ばれるような事業が必要ではないかなというふうに考えております。再編計画について、今後こういう取り組みがあるんだということも踏まえて柔軟に特別委員会で議論していただければなと感じております。そして、まんがぱーくということで、漫画については市民の意見も大分違う状況があると思うし、漫画では一方では文化と捉えている方もいるだろうし、一方では遊び、漫画を読むよりは勉強しなさいという考え方の違い、偏見のようなものも若干あるんじゃないかなと思います。今後漫画ということについてももう少し議論していったほうが、私はより図書の利用についても生かされるのではないかなと思っております。また、事業者も興味を示していたということで、今後魚沼市でも積極的にそういう事業者との懇談や市民とのワークショップなどを開いて啓発する必要があるんじゃないかと感じました。最後、イングリッシュビレッジですけれども、基本的には前橋市の英語村に対する特徴的な取り組みというのがベースにあって、その中で事業者が提案してやっていると伺いました。我が市でも、この施設をどうこうというよりは、やっぱり特徴ある教育を行う上で英語というのは私は非常に大きいんじゃないかなというふうに考えていまして、ここと同様にやるというのは現在では当市では難しいんじゃないかなと思いますが、特徴ある教育を魚沼市で、学校再編もありますけれども、考えていく必要があるんじゃないかなというふうに感じてまいりました。今後このイングリッシュビレッジを通してこの委員会で議論していければというふうに感じてきました。

佐藤委員長　それでは、私から報告させていただきます。まずエンディングプランの関係についてなんですけれども、やはり魚沼市にとっては引き取り手のない遺骨というのは年間

数件とか、相当少ない数ではありますが発生するという、それから今後高齢化が進んでくればくるほどそういった事例は出てくるのかなというふうに想像ができるということで、今後調査が必要なのではないかなというふうに感じてまいりました。もう一つの登録のほうなんですけれども、誰でもできる、そしてそれほど費用をかけずに実施できる事業だということで、これは個人情報ではありますがそういうデータベースを市が持つことによっていろんな事業、防災だとか空き家対策だとか、また、医療や福祉に関連する部分につなげていく大事な部分だろうと思いますので、この辺については今後研究する必要があるというふうに感じてまいりました。立川市まんがぱーくの関係についてなんですけど、こういう事業を企画して実際に立ち上げ、そして施設を増改築までして受けていただく事業所があるということで大きく動いた事業なのではないかなと。単純に魚沼市に当てはめることは難しいと思いますけれども、今後そういった公共施設の再編を含め、やはり市民がどこに手を出していけるのか、市民主体で運営できる部分があるのかなのかという点を含めて検討を進めていただければというふうに考えてきました。前橋市のイングリッシュビレッジにつきましては、専門学校、学習塾等を運営する事業者が主体で考えられたということで、そういう校舎を使うのにある程度慣れていたのかなということを感じました。ですので、大きな改造等もなく古い校舎をそのまま利活用されているということだろうと思います。魚沼市内も今後空き校舎が出てくるわけなんですけれども、利活用を求めるためにはどうするのか、目標を立ててこれを使うんだということであれば、やはりほかの委員も言われましたけれども耐震等も含めて相当初期投資をして引き渡すみたいなのも考えていかなければならないのかなというふうに感じてきました。以上、意見、感想等を聞かせていただきました。これらを私のほうでまとめて報告書を議長宛て提出させていただくことに異議ありませんか。(異議なし) 異議なしと認め、そのように決定しました。

(3) その他

・平成30年度うおぬま元気ポイントの前期実施状況について

佐藤委員長 日程第3、その他を議題とします。執行部から資料が提出されていますので、説明を求めます。

金澤健康課長 うおぬま元気ポイント、ことし2年目になりますが、5月から9月末まで前期の集計をいたしましたので、担当の山田室長から報告させていただきます。

山田健康増進室長 (資料「平成30年度『うおぬま元気ポイント』の前期実施状況について(報告)」により説明)

佐藤委員長 これから質疑を行います。

本田委員 決算でも質疑させていただいてまた聞くのも恐縮なんですけど、昨年度の実績数だけもう一回教えてもらえませんか。どれだけ伸びているか、増減ですね、昨年度と比較して。

山田健康増進室長 前期分で29年度が170名、今年度が230名です。

大平委員 40代の男女の参加が非常に少ないということでしたけれども、今後どういう取り組みをされる予定があるのか、まずそこをお伺いしたいと思いますけど、いかがでしょうか。

山田健康増進室長　例えば、景品から先にお話しして申し訳ありませんが、トイレットパーですとか入浴券とか考えておりますが、別の角度から40代、50代の方が興味があるものとか、そういうものも検討していきたいと思っております。1つの案ですが考えております。

大平委員　ほかは考えていないんですか。

山田健康増進室長　今は個人にということですが、例えば事業所、企業や職場にお勤めをしている方が多い年代と思います。そちらのほうからも働きかけをするなども検討しております。

大平委員　企業から働きかけをいただくと、でもその前に企業さんを通してでもいいですけど、なぜ運動等が行われなだとか、健康に対して興味が薄いだとか、40代の肝心な現役世代の意向を少し調査はされたのでしょうか。それともこれからですか。

山田健康増進室長　この事業自体が昨年度からです。今現在が前期が終わったところということですので、少し検討しましてそれもやっていきたいと思っております。今まで調査はやっておりません。

関矢委員　参加者数、応募者数はふえておりますけれども、20代から40代が少ないですけれども、ポイントカードは各庁舎の窓口しかないんですか。ほかのスポーツ施設とかそういうところに置いてありますか。

山田健康増進室長　今はおっしゃったように各庁舎のほか公民館ですとかEスポの事務局、そういうところにも置いてあります。

関矢委員　民間になるのか指定管理なのかわかりませんが、ヤッコムのトレーニング施設の窓口だとかスイミングスクールだとか、行かれている方も結構いると思うんですけれども、そういうところにも置くと、実際はスポーツをしているんだけれども応募券を取りに行かないで参加していないというような数にもなるかと思うんですけれども、そういうのもつかめるように、もう少し取り扱いしやすい場所に置いてはどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

山田健康増進室長　ありがとうございます。ヤッコム等にも置いてございます。ほかの施設についても検討させていただきます。

浅井委員　うおぬま元気ポイントの市民への周知の仕方というのは、市報だけですか。

山田健康増進室長　4月の市報に、年度初めに載せます。ほかに、イベントでも職員がPRしておりますし、機会があるごとにお話をさせてもらっています。

浅井委員　年代別で見ますと60代、70代の方が一番多いんですけれども、やはり60代、70代の方たちは市報をよく見る年代だと思います。そのほかに20代、30代、40代、50代、この年代の方たちもスポーツしている人たちはいっぱいいるんですけれども、ちょっとこの若い人たちに向けての周知の仕方をちょっと考えたほうがいいのではないかなと思います。

山田健康増進室長　ホームページ等でもPRさせていただいておりますし、フェイスブックも今はやりですので検討してみたいと思っております。

佐藤委員長　ほかにありませんか。(なし)なければ、本件については以上とします。

・めぐみ幼稚園について

佐藤委員長　次に、教育委員会の報告を求めます。

堀沢教育次長　教育委員会から、めぐみ幼稚園について情報提供をさせていただきます。今まで福祉文教委員会にも情報提供をしていませんでしたが、保護者への説明会が終了することと、市報10月10日号での園児募集の記事が出るまで内密にとの幼稚園側からの要望により伏せさせていただいたものです。6月20日、まだ法人の機密事項ではあるがということではありましたが、めぐみ幼稚園の今後の運営について子ども課が相談を受けました。内容は、平成31年度から園の運営を段階的に縮小していき、33年度をもって閉園とする旨のものでした。主な原因は、1、園長の高齢化により人事の更新がままならなくなっていること。2、少子化により入園児数が減り経営が維持できなくなるなどでありました。そのほか閉園までの間の園の運営方法や、心配な点、魚沼市への要望などを受けております。次は、保護者向けの閉園の説明会を開催した際の保護者の反応について報告を受けております。内容は、9月に2回にわたり説明会を行った。説明会では、保護者の大半が存続を願っていたこと及び今後の幼稚園の受け皿をどう考えているのかという質問があったとのことでした。そして、保護者からの要望により、改めて保護者説明会を開催しましたが、参加した保護者の大半が園を残してほしい人たちで、存続の声が強く出たことにより、後日、再度集まることになったそうです。要望による保護者説明会の後、保護者会の三役が代表となって「存続させ隊」という会が結成されたようです。次の集まりでは、園存続のための方法などについて何点か提案が出されたそうです。出された提案に対する回答は保留とし、合同理事会・評議員会を開き協議することになり、11月5日に開催されたようです。この合同理事会・評議員会の決定事項としては、市報10月10日号で平成33年度に閉園することを前提に、平成31年4月1日現在2歳で、その年度中に3歳に達する児童、いわゆる満3歳児の募集停止を周知しましたが、満3歳児の次年度募集を再開することになったということです。平成33年度に閉園するということについては、現段階では変更していませんが、今後の園運営に対する検討を始めたとのことでした。以上、めぐみ幼稚園についての報告とさせていただきます。

佐藤委員長　これから質疑を行います。

星野委員　一番最近行われた保護者への説明会というのが11月の8日だったと思うんですけども、そのときに今までとかかわった点というのは、満3歳児を受け入れるということのみで、ほかの点は何にかかわった点はあったのでしょうか。

堀沢教育次長　今ほど情報提供させていただいた、星野委員おっしゃった点のみというふうには伺っております。

関矢委員　めぐみ幼稚園は民間ですので、我々が存続とかどうこうというのはなかなか口が出せないのかなと思いますけれども、教育委員会としてこのめぐみ幼稚園がなくなることによって市内に幼稚園自体がなくなるわけですね。その先については、今後どのように考えていられるのか。

堀沢教育次長　現在ですと、すもんこども園が認定こども園ということで幼稚園教育も行っているということですが、この件に関しましては小出地区、人口集中地区に幼稚園がなくなるとことは非常に大きいことだと考えております。今後うちのほうといたしまして、これがまだ完全に決定という形で報告を受けておりませんので、現在はまだ今後の園運営に対する検討を始めたということでもありますので、最終的に決定されたわけでは

ないですけど、今後うちのほうでも再編整備といいますか、子ども・子育て支援事業計画の中で考えていかなければならないというふうに思っております。現段階ではまだうちのほうも本格的に廃止というふうなお話で協議に入っておりませんので、まだ何ともいえないところであります。

関矢委員　　今ほど次長のほうで子ども・子育て支援事業計画、31年度で終わるわけですけども、今後その先の5年間の計画のために、前回の委員会で確かニーズ調査をこれからやるんだという話でしたけれども、まだそのニーズ調査の原案というか、その辺は固まっているのでしょうか。

堀沢教育次長　　今現在、まだ固まっておりません。

関矢委員　　このニーズ調査はいつごろ予定しておりますか。

広井子ども課長　　予定ですと今月末に子ども・子育て会議を開催いたしまして、そこで内容を決定いたします。そしてその後、12月中には配付をさせていただく予定になっています。

関矢委員　　そうしますと、31年度までの計画の中でもニーズ調査をやられていますけれども、量的に幼稚園を180人ほど希望されている。そういう中でめぐみ幼稚園が定員120人で、それでもまだ園児が減少している。そうしますと、幼稚園教育を希望しているんだけど、どちらかというところ3時以降の保育もあわせて希望したい、いわゆるこども園みたいなものを希望する方が多いんだと思います。そうしたときに、守門に認定こども園がありますけれども、あそこについては5歳児ですよ、幼児教育ができるのは。3歳、4歳は保育だけだと思うんですけども、それは違いますか。

広井子ども課長　　すもんこども園は、3歳、4歳、5歳で希望の方は1号認定ということで教育を行っております。ただ、クラスは合同、3歳児、4歳児、5歳児それぞれクラスは合同で1号認定の方、2号認定の方一緒に教育、保育を行っております。

関矢委員　　12月に配送されるということですけども、やはり保護者の皆さんがこういう情報をしっかりとわかるようなニーズ調査をしないと、前回5年前のときもそういう話があったかと思うんですけども、その当時はまだ認定こども園がそんなに認識されていない時代でしたので、そういうふうに幼児教育をしながら、その後保育園に行ける認定こども園制度があるんだということをしっかりと周知できるようなニーズ調査にさせていただきたいのと、今、小出地区から幼稚園がなくなるという話でした。でも、ニーズ調査をしてまた100人程度の希望者があったとしても、魚沼市全体を考えればすもんこども園がありますということになると、量的にキャパは足りているんだという話になりますけれども、なかなか小出の人が守門に行けるかといえば、それは難しい話ですので、その辺を考慮するなら地区を2つなり3つなり考えた中で施設の運営ができれば。今後の検討にさせていただきたいと思うんですけども、その辺についてはいかがでしょうか。

広井子ども課長　　確か今ほどの関矢委員のご意見は、前回の委員会でもニーズ調査にいろんな保護者の意向を汲んでほしいというご意見をいただいたように記憶しております。前回の関矢委員のご質問に、私はアンケートの項目は前回の項目と今回の項目、継続性があるので、その継続性も重視しなければならないというようなこととお答えしたかと思っております。ただ、いろんな社会情勢も反映してアンケートをすべきだというふうにも思っておりますので、関矢委員の今のご意見を参考にしながら、子ども・子育て会議の中で検討していきたいというふうに思っています。

関矢委員 子ども・子育て支援会議の中で決められることですが、もしその前に私も委員会があって、そこに出せるのであれば出していただいた中で調査をさせていただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

広井子ども課長 スケジュール的に、12月の月上旬に配付して、12月中に回収というスケジュールになっております。年を越して今度はアンケート結果の分析を行います。そして新年度にその分析をもとに次期計画の中身を検討していくというふうにスケジュールがつながっておりますので、ちょっとそのアンケートを遅らせるということになると、いろんなことに支障を来してきますので、11月中には決めさせていただきたいというふうに思っております。

関矢委員 では、アンケート結果が出たらまた委員会のほうで調査させていただければと思います。内容については、私どもが質疑した内容を会議に諮っていただくようよろしくお願いたします。

佐藤委員長 ほかにありませんか。(なし) なければ、本件については以上とします。

・介護老人福祉施設の整備について

佐藤委員長 次に、福祉課の報告を求めます。

中村福祉課長 介護老人福祉施設についての整備は、第7期の介護保険事業計画に50床という整備計画をあげたところですが、先月1つの事業者から堀之内病院の旧療養病床について活用の打診があったんですけども、現地を見ていただいたりもしましたが、ちょっと調整が整わずに、その後は活用については進んでおりません。今後は市の医師会の方とも介護施設についての検討をしながら、整備について進めていきたいと思っています。具体的なものにはなっておりませんので、簡単ですけども現在の状況を報告させていただきます。

佐藤委員長 これから質疑を行います。(なし) これで、その他を終わります。本日の会議録の調製については委員長に一任をいただきたいと思います。本日の福祉文教委員会は、これで閉会とします。

閉 会 (11:01)